



コスモス

Yamamoto Acc office



山本総合会計ニュース

編集発行人
税理士

山本孝久

〒152-0003
東京都目黒区碑文谷5-12-1
TS碑文谷ビル2F
TEL 03 (3791) 8863
FAX 03 (3791) 8292

10月

(神無月) OCTOBER

13日・体育の日

日	月	火	水	木	金	土
.	.	.	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	.

ワンポイント 企業型確定拠出年金

従業員のために企業が掛金を拠出する（従業員も拠出可能）企業型年金で、運用に応じて受取金額が決まります。全額損金算入される掛金には限度がありますが、本年10月1日から、他の企業年金がない場合は月額5.5万円（従来5.1万円）、他の企業年金がある場合は月額2.75万円（従来2.55万円）に引き上げられます。

10月の税務と労務

- 国 税／9月分源泉所得税の納付 10月10日
- 国 税／特別農業所得者への予定納税基準額等の通知 10月15日
- 国 税／8月決算法人の確定申告
(法人税・消費税等) 10月31日
- 国 税／2月決算法人の中間申告 10月31日
- 国 税／11月、2月、5月決算法人の消費税等の中間申告
(年3回の場合) 10月31日
- 地方税／個人の道府県民税及び市町村民税の第3期分の納付 市町村の条例で定める日
- 労 務／労働者死傷病報告(7月～9月分) 10月31日
- 労 務／労災の年金受給者の定期報告
(7月～12月生まれ) 10月31日
- 労 務／労働保険料第2期分の納付 10月31日
(労働保険事務組合委託の場合は11月14日)

中小企業の 環境問題への 取組み

近年高まっている中小企業の環境問題への取組みについて、日本政策金融公庫が二〇一〇年に実施した環境問題に関するアンケート等を参考にみていくこととします。

◎七割強の中小企業が環境問題に取組み

環境問題への取組みは、大企業だけの問題ではなく、企業数の九九%を占める中小企業も重視する必要があります。例えば、二酸化炭素について、中小企業の排出量は我が国全体の二二・六%となっています。

中小企業が二酸化炭素削減に取り組むことは、エネルギー経費削減のみならず、日本全体の温室効果ガス削減のためにも極めて重要です。

中小企業では、「環境問題に取り組んでいる」三七・三%、「従う

べき法律や条例はないものの環境問題に取り組んでいる」一九二%と、自主的に取り組んでいる企業の割合は五六・五%と実に半数を超えています。これに「法律や条例に従って取り組んでいる」二〇・三%を加えると、七割強の中小企業が取り組んでいることとなります。

ここでは、環境問題に取り組んでいる中小企業のうち、法律や条例の有無に関わらず、自主的に取り組んでいる企業を取り上げてみます。

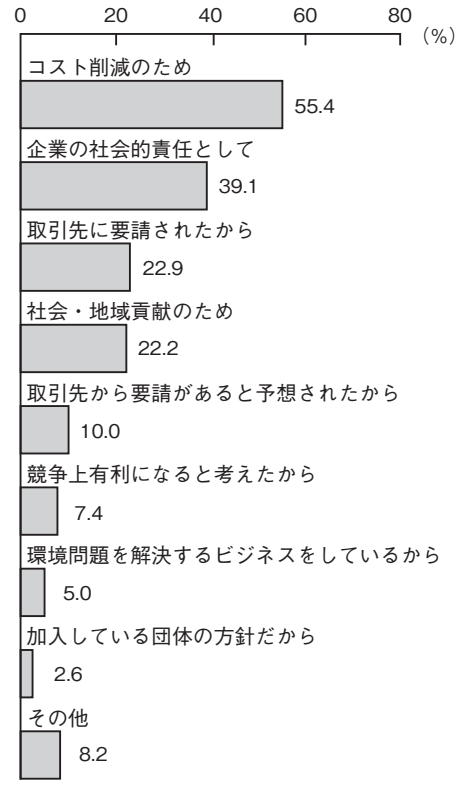
取組み内容としては、「廃棄物の削減」四二・七%が最も多く、「エネルギー消費量の削減」二九・九%、「包装・梱包資材の削減」二五・〇%、「環境に悪影響があるとされている化学物質の利用の削減」二〇・一%、と続いています。太陽光発電や風力発電の導入・利用のような、設備投資が必要となる取組みは少なくなっています。

◎リサイクルは多くない

リサイクル関連では、「リサイクル可能な原材料の使用」一九・〇

、「機械や備品に関してできるだけ中古品を購入」二八・七%と、廃棄物の削減と比べると多くありません。このことは、リサイクル可能な原材料を使うと費用がかさむ場合があること、中古品では現在の規制に合わない場合があること、新しい製品ほど省エネ性能が向上していること、などが考えられます。なお、「廃棄物の削減」に取り組んでいる企業の割合は、建設業が四九・四%と約半数を占め最も多く、「エネルギー消費量の削減」では運輸業が四一・〇%と他の業種に比べると多くなっています。

取り組みを始めた動機（複数回答）



◎取組みの動機は「コスト削減のため」

取組みを始めた動機としては、「コスト削減のため」が最も多く五五・四%、「企業の社会的責任として」三九・一%、「取引先に要請されたから」二二・九%、「社会・地域貢献のため」二二・二%、となっています。

昨今、地球環境問題に対する意識が国内のみならず、国際的に高まっています。そうした背景から環境問題への取組みは中小企業にも広がっていると見え

ます。

受注・販売先から環境問題に対しての支援の内容としては、「環境問題への対応に関する説明会を開催してくれた」五四・三%、「具体的な対応策について相談にのってくれた」四二・九%となつています。中小企業では、一般的な説明を聞いても実際にどう取り組めばいいか分からないケースが多く、その企業に合った個別具体的な指導や支援が有効なようです。

◎取組みの苦労は「従業員の協力を得ること」

取組みに当たって苦勞するのは「従業員の協力を得ること」（四一・八%）が最も多くなつています。経営者が単独で取り組んでも効果は上がらず、従業員全員で取り組むことが必要です。実際に仕事の進め方が変わる場合、従業員の意識を変えなければなりません。このため、「目標を立てて、達成した従業員の表彰」や「企業内での環境に関する勉強会」などを設けることによつて、環境問題への取組み

についての理解を深めるようにしている企業もあります。

次に多いのが「知識やノウハウを得ること」（四〇・三%）となつています。この対策として、環境問題の取組みで成功している中小企業から話を聞く、環境コンサルタントを雇うことなどが考えられます。

◎環境問題に取り組んだメリット

「目立った効果は無かつた」が三二・九%で、残りの六七・一%は何らかのメリットを受けています。メリットを受けたと回答した企業のうち最も多いのが「経費削減に繋がった」の四〇・五%。次に「企業イメージが向上した」の二一・二%で、ISOの取得等を会社案内やホームページで紹介し、環境問題に配慮していることを対外的に示すことができず。また「従業員が自発的に仕事に取り組むようになった」は一・〇%で、従業員から環境問題への提案を受け実践することで従業員の自信と意欲の向上に結び付けています。

この他、「費用をかけて処分していたものを新製品として活用に繋げた」「新エネルギー機器の開発」等のメリットが表れた企業もあります。

◎環境問題への取組みを継続していく上での問題点

問題点として多いのが、継続する意思を保つのが難しいとする回答で「環境への効果がわかりにくい」（三八%）、「負担の割に事業上のメリットが無い」（三三%）を挙げているほか、「環境関係の新しい法律や条例を知る機会が少ない」（一八・四%）など、何らかの問題があるとする企業割合は七割を超えています。この他、「ISOの取得に費用の負担が大きい」とする企業も一割ありました。

◎今後の方針

中小企業では今後、取組みを拡充、それとも縮小したいのでしょうか。結果をみると、「拡充」三三・八%、「縮小」二・四%、「現状のまま」六三・九%となつて

います。

拡充したい取組みとして挙げるのが、「廃棄物の削減」（六六%）、「エネルギー消費量の削減」（四六%）、「包装・梱包資材の削減」（三五%）、「リサイクル可能な資材の使用」（三〇%）となつています。拡充するに当たつては「必要になる」（四二%）、「必要ではない」（五八%）と、既存の設備で対応するケースが半数を超えています。新規設備投資の意欲も見られません。

環境問題への取組みを継続・拡充するための一つの方策として、自社の経営と結び付けて捉え既存の業務を見直すことがあげられます。現状から問題点や課題を見出し、具体的な目標や計画を立てて実行することは、経営を改善することにも繋がります。個々の中小企業は、大企業と比べて環境問題への取組みの影響は小さいかも知れませんが、企業数の九九%を占めている中小企業による積み重ねは大きく、今後も積極的な取組みが期待されるところです。

ホテル利用のクレームと対応

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けてホテル建設が増加しています。また、外国人旅行者を日本へ呼び込もうとの政府方針がありますから、当分、この傾向は続くでしょう。

ホテル業界では、早くもベテラン従業員の引き抜きが行われています。

一方では、利用客とホテル間のトラブルも予想されますが、利用客、ホテル側の双方の気付き合いにより防ぐことも可能です。

クレームとして多いのは以下のようなものです。

- ①客室の清掃が不十分である。
浴槽に入って、ふと洗面台を見たら裏側に洗剤が付着していた等
- ②備品のセットもれがある。
ツインルームなのに歯ブラシが一本しか用意されていなかった等
- ③冷蔵庫の中に飲みかけのものがある。

前に泊まっていたお客様の飲みかけの缶ビールがあった等

- ④所持品が紛失。客室係があやしい。
机の上に置いてあったと思う指輪がない等
このようなクレームに対し、ホテル側は以下のように考えています。
イ ホテル業界は人手不足です。ホテル側としては黙ってお客様が遠のくより、いたらない点は我慢せず指摘してもらいたい。
ロ ホテル側は、備えつけの歯ブラシやひげそり等備品一式は全て持ち帰ることを望んでいる。ホテルの宣伝になるし、客室係の手間が省ける。
ハ 冷蔵庫内の飲・食料品は全てチェックは難しい。利用客も注意すべきであろう。
ニ 清掃の際、小さな物は見落とすことはある。ホテル側は防止策として、ゴミ(ゴミ袋)は3日間保管している。気がついたら遠慮せず早めに届けて、ホテルへの疑念を持たないで欲しい。

守・破・離

守・破・離は武道の教えで、道^{ミチ}をきわめる過程です。
守—基本の型を身につける
(基本の習熟)
破—基本の型を破り応用する
(応用)
離—新しい型を創る
(創造・独自性)
碁や将棋でも基本の型をマスター(定石を打てる)すると初段になり、有段者同士(二段、

三段となると)では応用の手を打ちます。NHKテレビの日曜囲碁講座ともなると、対局者同士の独自性がファンを喜ばせてくれます。
翻って、中小企業経営の、守・破・離とは何でしょう。否、守さえ人により、まちまちの見解があります。ただし、言えるのは、守・破・離を全うできる経営者というのは、松下幸之助氏が言った「すなおな心」を持つ人である、と思うのですが：

主婦、ママの就職支援

「働きたい主婦、ママ」と「人不足なのに応募者が来ない会社」は、どのようにマッチングさせたらよいのでしょうか？

会社は、主婦、ママへの固定観念(以下のとおり)を考え直し、会社の戦力に結びつけて欲しいと思います。

- ① 主婦、ママは、お子さんが熱を出すと休む、従って、よく休日をとる、と考える。しかし、一般のOLと子供がいるOLでは年間の欠勤が2日間しか変わらない(大手調査会社の調査より)。
- ② 大多数の主婦、ママは週3日、1日6時間の働き方を希望する。一方、企業は1日8時間、週5日の勤務者を採用しようとする。しかし、業務分析を見直すと、主婦、ママのローテーションで対応できる場合がある。
- ③ 家事の仕事は同時進行で行われている。要領の良さ等能力は高いものと認識すべきである。